

治水

発行 全国治水期成会同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号ロイクラトン麹町
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664
ホームページ <http://www.zensuiren.org/>
お問い合わせ infoinfo@zensuiren.org
編集・発行 椿本和幸



楯山公園（日本一公園）からの最上川と左沢の街並み
（東北大会・山形県）



木場湯 ©石川県観光連盟
（北陸大会・石川県）



駿河湾内の三保半島と奥に望む富士山
（中部大会・静岡県）



京都市桂川（渡月橋）
（近畿大会・京都府）



仁淀川（名越屋沈下橋付近）
（四国大会・高知県）



湯原ダムと湯原温泉砂湯（露天風呂）
（中国大会・岡山県）



甲突川から移設した西田橋（石橋記念公園）
（九州大会・鹿児島県）

● 目次

東北地方治水大会の開催について	2	中国地方治水大会の開催について	11
北陸地方治水大会の開催について	4	四国地方治水大会の開催について	14
中部地方治水大会の開催について	7	九州地方治水大会の開催について	17
近畿地方治水大会の開催について	9		

東北地方治水大会の開催について

令和6年10月15日（火）13:30～
山形市 ホテルメトロポリタン山形
事務局：山形県県土整備部河川課内

令和6年度東北地方治水大会の事務局を担当します山形県から、本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。

【山形県のすがた】

山形県は、東北地方の日本海側に位置し、蔵王、月山、鳥海、吾妻、飯豊、朝日と日本百名山に数えられる秀麗な山々に囲まれ、南から連なる米沢、山形、新庄の各盆地と庄内平野を「母なる川」最上川が流れる、美しい自然に恵まれた地域です。

江戸時代、俳聖・松尾芭蕉は「奥の細道」の全行程156日のほぼ三分の一にあたる43日間を山形県で過ごし、その旅は出羽三山を目指した「心の旅」とも言われるように、いにしへの昔から、山形県は精神文化の地とあがめられてきました。

全国第9位の93万haの県土面積は、その地勢や江戸時代の幕藩体制のなごりから、方言や食べ物など、文化も少しずつ異なり、南から、置賜（おきたま）、村山（むらやま）、最上（もがみ）、庄内（しょうない）の4つの地域に大きく区分されています。



楯山公園（日本一公園）からの
最上川と左沢の街並み

【河川の状況】

本県が管理する河川は、一級水系では、最上川、赤川、荒川の3水系495河川、河川延長2,549.8km、二級水系では、月光川、日向川、新井田川等の17水系59河川、河川延長269.7km、総計20水系554河川、河川延長2,819.5kmに及んでいます。

本県の河川は、東西に流れるものと南北に流れるものに大別され、東西に流れる河川は、山地より短距離で本流に合流するか海に注ぐため、河床勾配が急で流域面積も狭小である一方、南北に流れる河川は、河床勾配が緩く、蛇行しているものが多いといった特徴を有しています。

【近年の災害】

近年、全国的に豪雨災害が激甚化・頻発化しておりますが、山形県でも、令和元年東日本台風、令和2年7月豪雨、令和4年8月豪雨及び令和6年7月豪雨と、短期間のうちに多くの大規模災害に見舞われています。

令和元年東日本台風及び令和2年7月豪雨では、それぞれ県内4地点及び県内5地点の気象庁所管観測所で観測史上1位の日降水量を更新し、記録的な大雨となりました。この台風及び豪雨により、県内各地で土砂災害や河川の氾濫が発生し、多くの家屋が浸水する被害が発生しました。

令和4年8月豪雨では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続き、記録的短時間大雨情報が6回発表されたほか、大雨特別警報が山形県では初めて発表されました。この大雨により、最上川上流で氾濫が発生するなど、河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生し、置賜地域や村山地域の市町で多くの家屋が浸水するなど大きな被害となりました。

令和6年7月豪雨では、同日の昼過ぎと夜遅くに線状降水帯が発生し、大雨特別警報が1日

に2回発表されるなど、これまでに経験したことのないような大雨となりました。この大雨により、最上川中流で氾濫が発生するなど、河川の氾濫や浸水害、土砂災害が多数発生しました。また、庄内地域や最上地域を中心に床上・床下浸水などの家屋被害が多数発生するなど大きな被害となりました。



令和6年7月豪雨 最上川氾濫状況
(戸沢村蔵岡)

【事業実施状況】

令和元年東日本台風及び令和2年7月豪雨の被害状況等も踏まえ、県内の各水系において、河川流域全体のあらゆる関係者が協働し流域全体で水害を軽減させる「流域治水プロジェクト」が令和3年に策定され、国、県、市町村等が連携し、ハード・ソフト一体となった対策を進めています。

また、令和2年7月豪雨により甚大な被害が発生した最上川中流・上流では、同規模の洪水に対して氾濫を防止し、浸水被害の軽減を図ることを目的に「最上川中流・上流緊急治水対策プロジェクト」が策定され、国・県・市町村等が連携して河道掘削、堤防整備等の取組みを集中的に実施しています。さらに、令和4年8月豪雨での被害を踏まえ、「最上川上流(置賜地域)緊急治水対策プロジェクト」が策定されています。

なお、山形県が管理する河川においては、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策予算」等を活用し、概ね10年間(令和2年度～11年度)で35河川37か所、約500億円規模の河川整備を集中的に実施しています。

流域治水プロジェクトに基づく河川整備の進捗状況をホームページで公開

←ホームページ
QRコード

【東北地方治水大会の開催】

10月15日(火)に令和6年度の東北地方治水大会を山形市で開催いたします。

開催地の山形市は、スキーや温泉、樹氷で名高い「蔵王」や、松尾芭蕉ゆかりの「山寺」などの観光地を有する自然豊かなまちです。加えて、豊かな土壌が生み出す四季折々の豊富な作物と、たくさんの郷土料理が受け継がれており、なかでも「芋煮」は、秋の風物詩となっている「日本一の芋煮会フェスティバル」が山形市の馬見ヶ崎川河川敷を会場に開催されます。冷たいラーメンの発祥地でもある山形市は、外食でのラーメンの年間支出金額が全国1位と、個性豊かで多種多様なラーメンがたくさんあります。

豊かな自然に恵まれた山形県は、35市町村すべてに温泉が湧き、どこに行っても温泉を楽しむことができる温泉王国です。また、本県が誇るブランド米「つや姫」や「雪若丸」、さくらんぼやラ・フランスなどの美味しい果物、全国屈指のブランド牛、丹精込めて造られた質の高い県産酒・県産ワインなど、多くの美食・美酒を有しておりますので、御来県の際にぜひ御堪能いただければと思います。

北陸地方治水大会の開催について

令和6年10月24日（木）13:10～

金沢市 ANAクラウンプラザホテル金沢
石川県土木部河川課

令和6年度北陸地方治水大会の事務局を担当します石川県から、本県の紹介と大会のご案内を申し上げます。

【石川県のすがた】

石川県は本州のほぼ中央部、日本海側に位置し、地形は南北に細長く（東西約100km、南北約198km、海岸線約581km）、南は日本三名山の一つに称えられる白山を水源とする手取川などで形作られた肥沃な加賀平野、北は日本海に突き出た能登半島からなり、白山国立公園、能登半島国立公園などに代表されるように豊かな自然に恵まれています。

また、海岸線は、波打ち際を車で走行できる千里浜海岸のほか、能登金剛や曾々木海岸などの荒々しい能登外浦、七尾湾や九十九湾などの穏やかな能登内浦など、長く変化に富み、それぞれ特色ある地形を形成しています。

県内総人口は約110万人で、11市8町の行政区画で構成されています。県都金沢市は藩政時代から加賀百万石の城下町として栄え、城下町の情緒を今に伝える街並みが至るところに残されているのが特徴です。近年は、現代アートやオーケストラなど新しい文化都市としての一面でも注目され、伝統と新しさが共存する街として、その魅力を世界中に発信しています。

本県は日本海側特有の気候であり、特に冬には北西からの季節風により気温が低く雪の降る日が多くなるため、年間降水量は国内でも上位となっています。

また、冬の雷も多く観測されるほか、北陸地方の常で冬期の日照時間が少ないことも特徴となっています。

本年1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、能登北部を中心に甚大な被害が生じたほか、比較的被害が少なかった金沢市を含む加賀地方でも、一時的に宿泊のキャンセルが相次ぐなど大きな影響を受けました。

こうした中、3月には北陸新幹線が敦賀まで開業し、小松駅、加賀温泉駅も首都圏と直結されたことや、国の「いしかわ応援旅行割」キャンペーンが観光誘客の後押しとなって、金沢や加賀の宿泊者数や来訪者数が回復しているところであり、こうした効果が能登の復興の大きな後押しとなることが期待されています。



金沢駅 ©石川県観光連盟



木場潟 ©石川県観光連盟

【河川の概要】

本県は南北に細長い半島地形という特色から、県内最大の手取川を代表に、水源から河口まで標高差が大きく延長が短い急流河川が多く、一級河川は手取川（長さ72km）と梯川（長さ42km）の2水系48河川、二級河川は59水系

166河川の県管理河川合計で61水系214河川となっています。さらに、準用河川を含めると120水系393河川となります。

【近年の主な災害と事業実施状況】

令和6年能登半島地震では、河道埋塞や堤防沈下、河川・海岸の護岸等、公共土木施設にも甚大な被害が生じたことから、出水期までに応急復旧を終えたところであり、現在は一日も早い本格復旧に努めているところです。

また近年、全国各地で想定を超える豪雨が多発しており、本県でも、令和4年8月には、加賀南部の梯川流域において記録的な豪雨となり、堤防決壊や越水などにより甚大な浸水被害をもたらしました。また、昨年7月には加賀北部の河北郡市でも複数の河川で越水し、広範囲に浸水被害を生じたほか、護岸等にも多数の損壊が発生しました。

こうした被害は、河川管理者が主体となった従来の治水対策だけでは防ぎきれないことから、本県では、国や市町などの関係機関と連携し、ハード・ソフト両面での防災・減災対策を「流域治水プロジェクト」として取りまとめ、県下

全域で「流域治水」の取り組みを進めています。

具体的には、ハード対策として、過去に大規模な被害が発生した河川や人家が連担するなど、氾濫等により甚大な被害が想定される県管理の16河川で、重点的に河川改修を進めるとともに、土砂の堆積が見込まれる河川の堆積土砂除去などにも力を入れています。

また全国的に、ハード対策だけでは防ぎきれない記録的な豪雨が多発していることから、住民の迅速かつ確実な避難につなげるべく、昨年、小規模河川の洪水浸水想定区域図を公表したところであり、引き続き、市町における洪水ハザードマップの早期見直しを支援するなど、ソフト対策も積極的に進めているところです。

加えて、特に甚大な被害が発生した梯川流域や河北郡市では、国、県、市町などの関係機関が連携し、再度災害防止に向け、緊急的かつ一体的に取り組むハード・ソフト両面での対策を「緊急治水対策プロジェクト」として取りまとめ、現在、このプロジェクトに基づく各種施策を推進しているところです。

今後も引き続き、国や市町などの関係機関と一体となって「流域治水」に取り組んでいきます。

河川改修の事例（熊木川：七尾市）



拡幅



堆積土砂除去の事例（涌波川：金沢市）



土砂除去



【北陸地方治水大会の開催】

最後になりましたが、今年度の北陸地方治水大会は、10月24日(木)に金沢市で開催されます。

金沢以南の地域では、震災の被害も少なく、ほぼ平常通りの状況となっています。来県される皆様には、兼六園や金沢城公園、全国有数の温泉、さらには新鮮な山海の幸など、本県の多彩な魅力をぜひご堪能され、能登復興の一助に繋げていただければ幸いです。

皆様のお越しを心からお待ち申し上げます。

中部地方治水大会の開催について

令和6年10月16日（水）13:00～
静岡市清水文化会館「マリナート」
静岡県交通基盤部河川砂防局

令和6年度中部地方治水大会の事務局を担当します静岡県から、本県の紹介と大会の御案内をさせていただきます。

【静岡県のすがた】

本県は、日本のほぼ中央の太平洋側に位置し、県土は東西約155km、南北約118km、面積は約7,780km²です。県土の北側には、世界文化遺産の富士山やユネスコエコパークに登録された南アルプスなど3,000m級の山々が連なり、南側には最大水深2,000mを超える駿河湾やユネスコ世界ジオパークに認定された伊豆半島を抱え、急峻で変化に富んだ地形を有しています。また、年平均気温は16.5℃程度、年平均降水量は約2,300mmと、温暖で降水量が豊富な気候に恵まれた土地となっています。



駿河湾内の三保半島と奥に望む富士山

【河川の概要】

本県には、天竜川や安倍川等の一級河川が6水系268河川と、太田川、巴川等の二級河川が83水系266河川あり、総延長は2,863kmになります。その特徴としては、富士山や南アルプスが背後にあることから南北に流れる河川には急流河川が多く、一方で、海岸に沿って東西に流れる河川には、緩勾配で排水に困難を来す河川もあります。このため、過去より幾度となく台風や豪雨による水害に見舞われており、とり

わけ昭和33年の狩野川台風、昭和49年の七夕豪雨、昭和57年の台風第10号などで大きな被害が発生し、古くから地域の安全・安心のため、継続して治水対策に取り組んできました。

【近年の浸水被害と治水対策】

本県では、近年、これまでに経験したことのない記録的な大雨や頻発する局地的な集中豪雨により、大きな浸水被害が発生しています。

令和4年9月の台風第15号では、記録的短時間大雨情報が県内で16回発表され、島田市伊久美で24時間最大雨量544mm、時間最大雨量127mmを記録するなど、県中部・西部の複数の観測点において、観測史上1位の値を更新しました。この大雨により、静岡市や浜松市など15市町で、床上浸水約5,700棟、床下浸水約4,100棟の甚大な浸水被害に見舞われました。



安間川流域の浸水状況（浜松市）

静岡市中心部を流れる巴川流域では、昭和49年7月の七夕豪雨（24時間最大雨量508mm）を契機として総合治水対策特定河川事業に着手し、本川の河道改修、大谷川放水路や麻機遊水地の整備等を進め、平成21年度からは特定都市河川の指定を受け、静岡市の下水道事業等と連携して内水対策や流域対策を強化促進し、「総合的な治水対策」を推進してきました。この対策により巴川流域では、七夕豪雨に匹敵する令和4年

台風第15号の豪雨による浸水被害を大幅に軽減（約26,100棟→約4,800棟）することができましたが、治水安全度の更なる向上を目指し、令和5年度から浸水対策重点地域緊急事業により治水対策を加速しています。



ほぼ満水状態となった麻機遊水地（静岡市）

また、令和5年6月の台風第2号と前線による豪雨では、裾野市須山で24時間最大雨量623mmを記録するなど、複数の観測点において観測史上1位の値を更新し、床上・床下合わせて約600棟の浸水被害が発生しました。前年の甚大な浸水被害から1年も経たず発生したこの浸水被害は、本県の水災害が新たなステージに入っていることを再認識させるものとなりました。

【流域治水と水災害の自分事化の推進】

本県では、気候変動の影響により新たなステージに入った水災害に対し、流域のあらゆる関係者と連携して「流域治水」に進めるため、流域全体で取り組む「流域治水プロジェクト」に加え、浸水被害が頻発する地区で取り組む「水災害対策プラン」を本県独自で策定しています。

「水災害対策プラン」は、浸水被害を発生させた近年洪水等を対象に、浸水シミュレーションで効果を確認した今後5～10年間で実施するハード・ソフトの被害軽減対策を取りまとめたもので、県・市町等の関係機関で組織する協議会で合意し策定します。令和4年台風第15号で大きな浸水被害が発生した巴川や庵原川、敷地川など県内15流域21地区をプラン策定対象の「重点対策流域」に設定し、プランに基づく流域治水対策を関係機関が連携して実施しています。

また、ソフト対策の推進には、地域住民等が自らの水災害リスクを認識し、自分事として捉え、主体的に行動することが重要です。今年は、県内に甚大な浸水被害をもたらした七夕豪雨から50年の節目であるため、特に、七夕豪雨に着目した取組を展開しています。7月の「七夕豪雨災害から50年～あの水災害を自分事に～」と題したシンポジウムや県内各所でのパネル展の開催、防災かるたの作成、洪水痕跡表示板の更新など、地域住民等が過去の水災害を振り返り、現在の水災害リスクを認識できる取組を展開し、水災害の自分事化の推進を図っています。



流域治水シンポジウムの開催状況

【中部地方治水大会の開催】

令和6年度の中中部地方治水大会は、10月16日（水）に静岡市清水区で開催いたします。

開催地周辺には、徳川家康公をまつる「久能山東照宮」や富士山の雄大な姿を眺望できる「日本平夢テラス」、富士山世界文化遺産の構成資産である「三保松原」などがあり、歴史や風光明媚な景観を楽しんでいただくこともできます。また、清水魚市場「河岸の市」などの飲食店で、駿河湾でとれた新鮮な魚料理に舌鼓を打っていただくのもよろしいかと存じます。

多くの皆様のご来場を事務局一同、心よりお待ちしております。

近畿地方治水大会の開催について

令和6年10月4日（金）14:00～
京都市 京都府立 京都学・歴彩館
事務局：京都府建設交通部河川課内

令和6年度近畿地方治水大会の事務局を担当します京都府から、府のPRと大会のご案内をさせていただきます。府内外から多くの皆様のご参加をお待ちしております。

【京都府のすがた】

京都府は日本列島のほぼ中央に位置し、4,612.21 km²の面積を有しており、国土の1.2%を占め、47都道府県中31番目の大きさとなります。

北は日本海と福井県、南は大阪府、奈良県、東は三重県、滋賀県、西は兵庫県と接しています。南北に細長い形をしており、そのほぼ中央に位置する丹波山地を境にして、気候が日本海型と内陸型に分かれます。

丹後・中丹地域の海岸線は、天橋立などの砂州地形や、舞鶴港をはじめとするリアス式海岸など変化に富む海岸地形で、多くは国立公園、国定公園に指定され、経ヶ岬以西は山陰海岸ジオパークに指定されています。

中丹地域から中部地域は、大部分が山地で、丹波山地を源にして桂川水系、由良川水系に別れ、その流域には、亀岡、福知山盆地のほか小盆地が点在しています。

京都・乙訓、山城中部・相楽地域は、桂川、宇治川、木津川の三川合流を要に、山城盆地が広がっています。



京都市桂川（渡月橋）

【河川の状況】

本府内の河川は、一級河川は、淀川、由良川の2水系305河川で、河川延長は約1,637.2km、二級河川は89河川で、河川延長は約409.1km、合計394河川、河川延長2,046.3kmに及んでいます。



京都市鴨川

【近年の災害と事業実施状況】

近年、地球温暖化に伴う気候変動の影響等から集中豪雨が頻発し、激甚な災害が全国各地で発生しております。

本府においても、平成30年7月の豪雨では、南丹市榎で総雨量620mmを観測したほか、全ての観測地点で総雨量が月平均を上回り、京都府北部を中心に大雨特別警報が発令されました。この豪雨により、死者5名、全壊・半壊65棟、浸水被害2,273棟など、大規模な被害が生まれました。

このような状況を踏まえ、京都府の河川では、河川整備計画に基づき、治水安全度の向上を目指した河川改修、河床の切り下げ等による天井川対策及び流域における将来計画や開発等のまちづくりに対応した整備を行っているところで



平成30年舞鶴市高野川流域（同年7月豪雨、国道27号線付近）

例えば、京都市内の中心を流れる鴨川では、平成25年台風第18号による浸水被害が発生した桂川合流点付近から京川橋（京都市伏見区）の整備を実施しています。また、本府の中西部を流れる桂川の支川の七谷川（亀岡市）では、破堤すると近隣の人家に甚大な被害が及ぶ危険性がある天井川区間約1.7kmについて、平成29年から護岸整備と河床の切り下げによる天井川の解消を推進しています。

さらに、河川の流域のあらゆる関係者により流域全体で行う「流域治水」の取組を推進しており、京都府内の一級、二級水系で設置している「流域治水協議会」の枠組みにより、それぞれ「流域治水プロジェクト」を策定・公表し、ハード・ソフト対策の更なる充実や協働体制の強化を図っております。



京都市鴨川整備状況（伏見区）

【近畿地方治水大会の開催】

令和6年度近畿地方治水大会を10月4日（金）に京都市で開催いたします。

本大会開催予定会場である「京都府立 京都学・歴彩館」は、特色ある京都の文化全般の研究推進と国内外への成果発信を行い、府民の学習拠点・交流の場として機能することにより、京都への関心を高め、京都文化の発展及び学術の振興を目的に設置された施設です。また、同館に隣接する「京都府立植物園」は、1924（大正13）年に日本最初の公立植物園として開園し、今年で開園100周年を迎えます。同園は、「生きた植物の博物館」を理念として、世界の珍しい植物や日本の希少植物をはじめとする国内有数の12,000種類の植物を展示しております。この機会にぜひ同園にも足をお運びいただければと思います。



京都府立植物園開園100周年記念ロゴ

今年の大河ドラマ『光る君へ』は日本最古の長編小説『源氏物語』の作者である紫式部が主人公です。会場の近辺には、紫式部が源氏物語を執筆し、その生涯を過ごしたと言われる「廬山寺」や、源氏物語第九帖『葵』の巻で描かれた賀茂祭（現在の葵祭）の舞台である「上賀茂神社」「下鴨神社」、紫式部生誕の地であり付近に紫式部の墓所がある「雲林院」など、源氏物語ゆかりの地が多く点在しております。

また、会場である中部地域から少し足を延ばしていただきますと、南部地域には源氏物語を体現した世界で一つの専門博物館である「宇治市源氏物語ミュージアム」、北部地域にはドラマのロケ地となりました「琴引浜」「天橋立」など多数のスポットがございますので、ぜひ京都にお越しいただき、『源氏物語』の世界に浸っていただければと思います。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

中国地方治水大会の開催について

令和6年10月7日(月)13:00~
岡山市 岡山芸術創造劇場ハレノワ
岡山県土木部河川課

令和6年度中国地方治水大会の事務局を担当します岡山県から、本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。

【岡山県のすがた】

岡山県は、南は瀬戸内海をはさんで四国に、北は山陰地方に、東は兵庫県、西は広島県に接し、昔から中四国地方の交通の要衝として重要視されてきました。県南部は穏やかな瀬戸内海とそこに浮かぶ多くの島々が美しい自然を形成し、県北部では緑豊かな山々と美作三湯(みまさかさんとう)と呼ばれる3つの温泉地に恵まれています。

県の面積は約7,114km²で全国17番目、人口は約185万人で全国20番目(令和5年10月1日、総務省「人口推計」)となっており、気候は降水量1mm未満の日数が全国第1位であることから、「晴れの国おかやま」をキャッチコピーにPRしています。

産業では、製造品出荷額は全国上位にランクされ、「ものづくり」産業が岡山県経済の特徴となっており、特に倉敷市の水島コンビナートは西日本最大の素材供給拠点であるほか、石油、化学、鉄鋼、輸送用機械など多彩で厚みのある産業が集積しています。また、温暖な気候と高度な生産技術を生かし、全国有数の質の高い農業が営まれており、中でも清水白桃、マスクット、ピオーネは、全国一の生産量と品質を誇ります。



岡山のフルーツ (@岡山県観光連盟)

主な観光スポットとしては、日本三名園の一つである岡山後楽園や岡山城、情緒豊かな白壁の町並みが楽しめる倉敷美観地区などがあり、国内外から多くの観光客が訪れています。



岡山後楽園と岡山城 (岡山後楽園提供)

【河川の現況】

中国山地に源を発し、岡山県を縦断して瀬戸内海に流れ込む3河川(吉井川、旭川、高梁川)は、良質で豊かな水をたたえており、古来から生活、産業、農業、運輸等に利用され、沿川地域の文化・風土の形成に大きく寄与してきました。

特に、江戸時代には瀬戸内海沿岸で大規模な干拓が進められると、河川からの取水を網目のように張り巡らせた用水路を利用して新田開発を推し進め、農業生産力を飛躍的に向上させるとともに、優れた土木技術により治水対策が同時になされることで、利水と治水を両立させるなど近代岡山の礎を築き上げるのに大きな役割を担うこととなりました。

河川法の適用を受ける河川は、一級河川は吉井川水系など4水系の458河川、延長は2,545.7kmで、二級河川は笹ヶ瀬川水系など22水系の64河川、延長は約269.7kmとなっています。

【近年の浸水被害と治水対策】

岡山県では、これまで平成10年の台風第10

号や平成23年の台風第12号など大規模な災害を経験してきましたが、平成30年7月豪雨はこれまで経験したことのない規模の災害となりました。一級河川高梁川水系高梁川や小田川、一級河川旭川水系砂川をはじめ、多くの河川で氾濫危険水位を超過し、観測史上最高水位を記録するとともに、堤防決壊や越水による外水氾濫に加え、内水氾濫が多くの箇所が発生したことにより、倉敷市真備町、岡山市東区、総社市をはじめ、広範囲において甚大な浸水被害をもたらし、多くの尊い命が奪われました。



平成30年7月豪雨の浸水状況（倉敷市真備町）

中でも被害の大きかった倉敷市真備町では、再度災害防止を図るため、国土交通省、県、倉敷市がお互いに連携して、「真備緊急治水対策プロジェクト」を推進し、本年3月には、河川激甚災害対策特別緊急事業により実施した、国の小田川合流点付替え事業や県の小田川3支川の堤防整備などが、完成したところであります。これにより、この地域の治水安全度の向上が図られ、真備地区の復興に向けた大きな節目となりました。



一級河川末政川の完成状況（倉敷市真備町）

また、岡山市の砂川においては、河川激甚災害対策特別緊急事業、総社市の高梁川においては、河川激甚災害対策特別緊急事業、河川災害復旧等関連緊急事業により、未被災区間を含めた一連区間において、築堤、河道掘削などを実施し、高梁川は令和5年度に完成、砂川についても、堤防が概ね完成しており、残る工事の早期完成に向け全力で取り組んでおります。

さらに、近年、気候変動に伴い自然災害が激甚化・頻発化している中、流域全体で水災害を軽減させる流域治水を推進するため、「流域治水プロジェクト」を、各一級水系と東部、西部、児島湖エリアに分けた二級水系で策定し、流域のあらゆる関係者と連携しながら、ハード・ソフト両面で事前防災対策を一層加速させていきたいと考えています。

ハード対策として、計画的な河川改修に加えて、即効的な対策として、河道掘削や樹木伐採を重点的に実施しており、浚渫土の処分場確保、伐採木の処分受け入れ等、市町村の協力を得て、コスト縮減を図りながら洪水被害リスクの軽減に取り組んでいます。

ソフト対策としては、平成30年度から令和2年度にかけて水位計を97基、簡易型河川監視カメラを67基増設したほか、すべての県管理河川における洪水浸水想定区域図（L1、L2）の作成・公表について、令和7年度末完了を目指し取り組んでいるところです。

また、令和2年5月には河川管理者、ダム管理者及び関係利水者が治水協定を締結し、民間の利水ダムも含めて、事前放流等の取り組みを推進しています。



湯原ダムと湯原温泉砂湯（露天風呂）

【中国地方治水大会の開催】

最後になりましたが、10月7日（月）に令和6年度中国地方治水大会を岡山市で開催いたします。この大会では、京都大学防災研究所で気象・水象災害の研究をされている中北英一教授に講演をしていただくこととしています。

岡山県には、瀬戸内の海の幸や旬の果物のほかにも、B-1グランプリをきっかけにブレイクした「ひるぜん焼そば」、「津山ホルモンうどん」、「日生カキオコ」などのご当地グルメも多くあります。開催地の岡山市でも、岡山が誇る郷土料理「ばら寿司」やデミグラスソースで食べる「デミカツ丼」といったご当地グルメが堪能できますので、お越しの際にはぜひお試しください。



津山ホルモンうどん（©岡山県観光連盟）

また、本大会開催日前後の期間には、岡山県北部の12市町村において、国際芸術祭「森の芸術祭 晴れの国・岡山」が開催されています。豊かな自然とアートとの非日常の特別な体験に触れることができますので、ぜひ足をのばしていただければと思います。

皆様のご参加を心からお待ちしております。

四国地方治水大会の開催について

令和6年10月23日（水）13:30～

高知市 高知会館

高知県土木部河川課

令和6年度の四国地方治水大会の事務局を担当します高知県から、本県のPRも含め御案内申し上げます。

【高知県のすがた】

高知県は、雄大な太平洋に抱かれ、緑深い森林に囲まれた美しく自然豊かな場所です。

北は四国山地で愛媛県、徳島県に接し、南は太平洋に面して扇状に突き出しています。

面積は約7,104km²で四国四県では一番広く、全国では18番目に広い面積を有しています。このうち、森林面積は約83%を占めています。

対して総人口は、691,527人（令和2年国勢調査）と全国第45位で、人口密度は97.3人/km²と大変低いです。

太平洋を臨む海岸線は長く、西部はリアス式海岸、東部は隆起海岸で平坦な砂浜が続いています。このような複雑な地形、温暖な気候、そしてたびたび訪れる台風の猛威などの自然が、土佐特有の風土をつくりあげています。



伊尾木洞（安芸市）のシダ群落

【河川の現況】

県内を流れる河川は、一級河川が4水系で393河川・延長1,923km、二級河川が97水系で271河川・延長1,243kmとなっています。

県中央北部を流れる一級河川吉野川は本県北部を源流として徳島県に流れる全長194kmの河川です。早明浦ダムは四国総合開発の要として本県に建設された多目的ダムで、四国4県に用水を供給し「四国のいのち」と呼ばれています。

県中央東部を流れる一級河川物部川は延長71kmで山間地を急勾配で流下し、下流域に広がる香長平野には高知龍馬空港や主要国道等が整備されているとともに、高知県最大の穀倉地帯であり、稲作のほか、野菜を中心とする施設園芸も盛んです。

県中央西部を流れる一級河川仁淀川は水質の良好な全長124kmの清流で、青く映える美しい水面は「仁淀ブルー」と呼ばれ人気を博しています。また、下流の土佐市、いの町では、約1,000年前から行われていたといわれる高知県の伝統工芸「土佐和紙」の製造が盛んです。



仁淀川（名越屋沈下橋付近）

県西部を流れる一級河川四万十川は全長 196km で、「日本最後の清流」と呼ばれ、知名度も高く、自然のままの姿を多くとどめ、日本の原風景ともいえる風情を残しながら、流域の人々に多くの恵みを与えてくれる豊かな自然が残された本県を象徴する河川です。



四万十川（岩間沈下橋）
（公財）四万十川財団提供）

【近年の浸水被害と今後の取り組み方針】

本県の気候は、山間部で年間降水量が 4,000mm に達する箇所もあるなど、日本でも有数の多雨地域です。そのため、本県はこれまでに多くの災害を経験してきました。

昭和 50 年 8 月の台風第 5 号は、高知市北部の柿ノ又雨量観測所で 3 時間雨量 312mm を記録するなど県中央部を中心に豪雨をもたらしました。これにより仁淀川、鏡川流域では、山崩れや土石流も続発する大災害となり、県内では、犠牲者 77 名、床上浸水 12,564 棟、床下浸水 19,734 棟の被害が発生しました。

翌年の昭和 51 年 9 月にも台風第 17 号が襲来し県中部や東部を中心に豪雨となり、高知市で日雨量 524.5mm、総雨量 1,305mm に達し鏡川が破堤、高知市の浸水被害は床上 11,720 棟と、連年の大災害となりました。この連年災害を契機に鏡川の治水計画が大幅に見直され、河川激甚災害対策特別緊急事業による整備が行われました。

平成 10 年には 9 月 24 日から 25 日にかけて秋雨前線により県中部を中心に激しく雨が降り、高知市で 1 時間雨量 129.5mm、日雨量 628.5mm という観測記録を更新する豪雨となりました。

県中部では複数の河川が氾濫し、県下の被害状況は、死者 8 名、床上浸水 8,341 棟におよびました。この被害をふまえ本県では高知市東部を流れる国分川の河川激甚災害対策特別緊急事業に着手し 17km にわたる河川改修を行いました。

平成 13 年 9 月には秋雨前線により 6 日未明から早朝にかけ大月町で時間雨量 110mm を観測するなど県西部で豪雨となり、床上浸水 264 棟、床下浸水 540 棟の被害が発生しました。夜半から早朝にかけ、山地崩壊も多発した深刻な状況であったにもかかわらず、犠牲者はでませんでした。これは、地元の強い連携により避難行動要支援者情報が共有され、消防団や区長を中心に人命を優先とする迅速な避難が実施されたためでした。

平成 26 年には台風第 12 号によって仁淀川町で累加雨量が 8 月 4 日に 1,000mm を越え、さらに 8 月 10 日に本県に上陸した台風第 11 号でも同町で累加雨量 900mm を越えるなど豪雨が続き、県下各地で被害が発生しました。特に仁淀川支川日下川では延べ 247 戸が、同支川宇治川では 294 戸が浸水したことから、床上浸水被害の解消を目標として、国、県、町村が連携し、両河川で床上浸水対策特別緊急事業を進め、本年度完成しました。

平成 30 年 7 月には梅雨前線により馬路村魚梁瀬において、降り始めからの総降水量が 1,845mm を観測したほか、本県では初めてとなる大雨特別警報が気象庁から発表されました。県東部を流れる安芸川などで氾濫が発生するなど、県内各地で甚大な被害が発生し、県下で死者 3 名、床上浸水 129 棟の被害が発生しました。



平成 30 年安芸川堤防侵食状況

急峻な地形と多雨地帯である本県にとってダム事業は治水・利水両面で重要な事業であり、現在、洪水対策及び用水供給を目的に和食ダム（芸西村、平成25年度～）、春遠第1ダム（大月町、令和4年度～）の本体工事に着手しています。



建設中の春遠第1ダム

また、洪水による浸水対策と並んで、本県の河川事業の喫緊の課題となっているのは、南海トラフ地震に伴う津波による長期浸水対策です。本県では平成20年から、地震高潮対策事業として人口の集中する高知市街地を中心に液状化対策や排水機場の耐震対策を推進しています。



耐震対策工事の状況（高知市・下田川）

【四国地方治水大会の開催】

令和6年度四国地方治水大会は、10月23日に高知市で開催いたします。本大会開催予定会場である「高知会館」はJR高知駅から路面電車で約20分の場所にあります。

会場付近は、「高知城」などの観光施設や「ひろめ市場」など多くの飲食店のあるエリアとなっています。



現在、本県では観光客の皆さんに、地元の方との交流や、地域ならではの魅力を、じっくり、深く、たっぷり味わっていただく「どっぷり高知旅キャンペーン」を展開しています。

また、来年春から放送されるNHKの連続テレビ小説「あんぱん」の主人公のモデルとなった本県がふるさとの漫画家 やなせたかし・暢（のぶ）夫妻ゆかりの地である物部川流域（香美市、南国市、香南市）では、来年春から、ものべがわエリア観光博「ものべすと」を開催します。（開催期間：令和7年3月29日～令和8年2月8日）

是非、この大会をきっかけに、県内各地を訪れていただき、高知をじっくり、深く、たっぷり味わってください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。



香美市立やなせたかし記念館アンパンマンミュージアム

©やなせたかし ©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

どっぷり高知旅キャンペーン
<https://doppuri.kochi-tabi.jp/>

九州地方治水大会の開催について

令和6年10月9日（水）13：30～
鹿児島市 ホテルウェルビューかごしま
鹿児島県土木部河川課

令和6年度の九州地方治水大会の事務局を担当します鹿児島県から、本県の紹介と大会の御案内をさせていただきます。

【鹿児島県のすがた】

鹿児島県は、本土の西南部に位置し、総面積は約9,188 km²で全国第10位、海岸線延長も2,643kmと長く、太平洋と東シナ海に囲まれた南北約600kmにわたる広大な県土を有しています。

地勢は、中央部を南北に霧島火山帯が縦断し、北部の霧島から南海のトカラ列島まで11の活火山が分布しており、豊富な温泉にも恵まれています。また、県下のほとんどの地域が火山噴出物であるシラス層によって厚く覆われています。

また、日本で初めて世界自然遺産に登録された屋久島や、珊瑚礁や稀少な野生動植物が見られる奄美群島をはじめとする、多くの離島は本県総面積の27%を占め、桜島や霧島等の火山、緑あふれる森林、変化に富んだ長い海岸線など、多彩で豊かな自然環境に恵まれています。



霧島連山（©K. P. V. B）



屋久島 白谷雲水峡（©K. P. V. B）

【河川の現況】

本県は南北約600kmに及ぶ広大な県土に、二つの半島や多くの離島を有しており、また、台風常襲地帯に位置し、梅雨期に降雨が集中するなど、地理的、自然的に大変厳しい条件下にあります。

県内を流れる河川は、一級水系3水系153河川、二級水系160水系310河川が流れており、総延長は約2,660kmに及びます。そのうち、県が管理する河川は、一級水系及び二級水系を合わせて459河川、延長2,490kmで、二級河川の管理延長約1,780kmは全国第3位の長さを有しています。

このような中、県管理河川の整備率は、約47%（令和6年3月末現在）と未だに低い状況であり、さらなる整備推進が必要です。

【近年の浸水被害と治水対策】

本県においては、これまで、全国的にも有名である平成5年の「8・6水害」をはじめ、平成9年の台風19号、平成13年9月の種子島豪雨、平成18年7月の県北部豪雨、平成22及び23年の奄美豪雨、令和2年の7月豪雨などにより、過去幾度も県内各地で河川の氾濫等による浸水被害や土砂災害が発生しました。

特に平成5年8月6日の「8・6水害」にお

いては、甲突川上流の旧郡山町役場で最大時間雨量99.5mmの記録的な降水量を観測し、鹿児島県の6日の日降水量259mmは、8月の日降水量としては、観測開始（明治16年）以来1位を記録しました。この豪雨により、鹿児島市内を流れる甲突川、新川、稲荷川の3河川が氾濫し、甚大な浸水被害が発生するとともに、長年市民に親しまれてきた甲突川に架かる五石橋のうち新上橋と武之橋が流失しました。



甲突川の氾濫による鹿児島市街地の浸水被害



流失した新上橋



流失した武之橋



鹿児島市天文館の浸水状況



甲突川の氾濫（鹿児島市河頭）

その後、甲突川においては、河川激甚災害対策特別緊急事業等により、河床の掘り下げや河道拡幅を実施するとともに、西田橋、高麗橋及び玉江橋の3橋の石橋については、石橋記念公園に移設を行いました。



甲突川激特事業等実施前



甲突川激特事業等実施後



移設した西田橋（石橋記念公園）

近年の状況を振り返ると、令和元年6月末からの大雨では、12時間雨量272mm、24時間雨量376mmなど、平成5年8月6日の降雨量を大きく上回る状況でありましたが、これまでの河川整備の効果を発揮し、家屋の浸水被害は発生しなかったところであり、改めて事前防災の重要性を認識したところです。



令和元年6月末からの大雨時の甲突川



また、ソフト対策として、8・6水害を契機に、インターネットを通じてリアルタイムで県内各地の雨量や河川水位等の観測データ、河川監視カメラの画像等を提供する河川砂防情報システムを全国に先駆けて整備し、運用してきました。

このようなハード・ソフトの取組を振り返るため、昨年度（令和5年度）は、「8・6水害」から30年目の節目を迎えたことから、被災当時の状況や、その後の復旧・復興などについて学び、平成5年の大災害の記憶が将来に語り継がれることを目的にシンポジウムを開催し、防災関係者の他、県民への防災意識の高揚を図ったところです。

さらに近年では、流域内のあらゆる関係者が協働して取り組む水災害対策である流域治水の取組を推進しており、令和4年度までに、県内すべての河川で流域治水プロジェクトを策定し、ハード対策として、河道掘削や護岸整備など、ソフト対策として、水位計・河川監視カメラの設置や洪水浸水想定区域の指定などに取り組んでいます。併せて、河川内に経年的に堆積した土砂の除去、いわゆる寄洲除去については、氾濫を未然に防止する重要な対策であることから、令和2年度に国が創設した緊急浚渫推進事業債を活用し、地元要望を受けながら、予算を大幅に増額して積極的に取り組んでいます。

このような中、本県では、流域治水の本格的実践に向け、令和6年3月、鹿児島市街地で甚大な浸水被害が発生した甲突川や新川、稲荷川について、九州内の二級河川で初めての特定都市河川に指定したことから、今後、ハード整備の加速に加え、関係者の協働による流出抑制対策等への取組などに向け、気候変動の影響を考慮した流域水害対策計画の策定に取り組むこととしております。



【九州地方治水大会の開催】

来る10月9日(水)、鹿児島市の「ホテルウエルビューかごしま」にて、令和6年度九州地方治水大会を開催します。当会場は、錦江湾を隔ててそびえる、鹿児島のシンボル桜島を目の前に臨む、絶好のロケーションに位置し、また、鹿児島市内には、世界文化遺産に登録されている「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である旧集成館や関吉の疎水溝など、日本近代化の礎となった近代化産業遺産が多く存在しています。

この他、多様で豊かな自然や、和牛日本一の鹿児島黒牛をはじめ黒豚、ブリ、カンパチ、鯉節など、多彩で豊富な食材、お茶、本格焼酎や個性豊かな歴史・文化など、多くの宝物を有していることから、本県は「南の宝箱 鹿児島」をキャッチフレーズ及びキャッチコピーとしております。県内各地において、こうした宝物がある鹿児島をこの機会に是非、御堪能いただきたいと思っております。

皆様の御参加を心からお待ちしております。



城山展望台からの桜島 (©鹿児島観光コンベンション協会)



黒豚しゃぶしゃぶ (©鹿児島市)